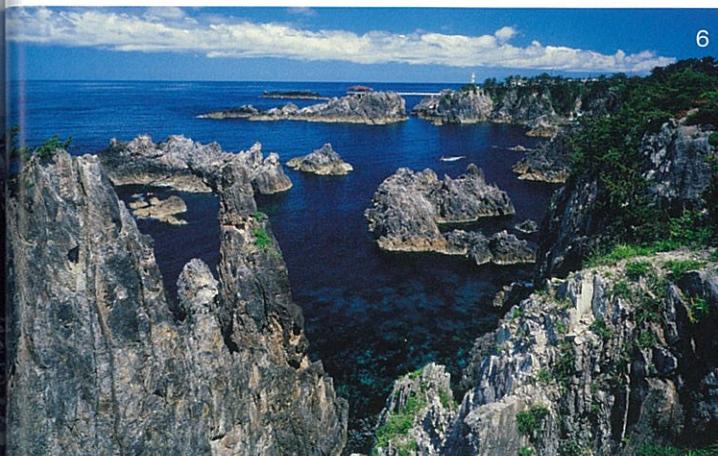
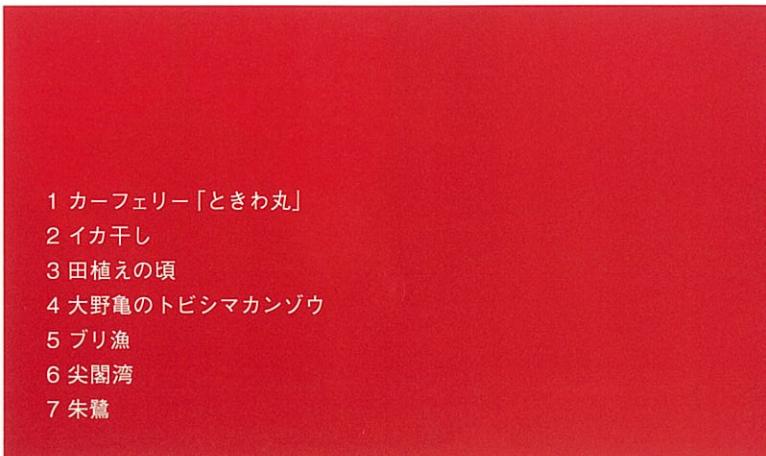




にほん紀行

佐渡

新潟県の沖合いに浮かぶ、佐渡島。東西南北で気候も異なり、北の植物と南の植物が生育しているといいます。そして国の特別天然記念物・朱鷺トキが生息しているのも忘れてはなりません。巡り巡る時間の中で、古くから佐渡はそのユニークな土壤を活かして、豊かな文化を形成してきました。さあ、今回は佐渡の神秘へとご案内します。



- 1 カーフェリー「ときわ丸」
2 イカ干し
3 田植えの頃
4 大野亀のトビシマカンゾウ
5 ブリ漁
6 尖閣湾
7 朱鷺

佐渡をめぐる。

佐渡への旅は、新潟から両津港へか、あるいは直江津から小木港へ。いずれも佐渡汽船の船の旅が特別にあなたを遠くへと誘う気分にしてくれることでしょう。そう、佐渡めぐりは、その地が刻んできた時間の襞に分け入つて体感する旅なのです。

さあ、かつて「孤島」と言われた佐渡に残された「時」をもとめて、旅へ出かけましょう。

日本人は古来より、旅に「漂泊」を重ねあわせてきました。しかし、都市化や観光化が進み、しみじみとした日本の良さを味わう旅というものを忘れかけているようです。

から続く米や農産物や海の幸の豊かさは、未だに私達の心を捉えてやみません。近年はトライアスロンの大きな国際大会も開かれ、多くの人が訪れるようになりました。佐渡は、歴史文化のふところが深く、豊かな「時」が埋蔵された場所です。「孤島」だった故にかえって、本当の「日本のふるさと」がこの島に保存されることになったのかもしれません。

また5月には、野山を黄色いトビシマカンゾウの花が覆いつくし自然愛好者を楽しませてくれます。更に、古く

時を旅する人のために。

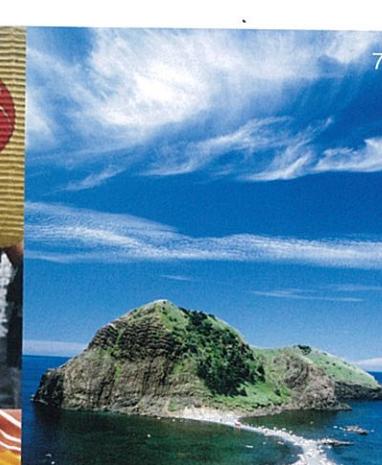
佐渡といえば、誰もが、江戸の俳聖・松尾芭蕉の句を思い浮かべるでしょう。

荒海や佐渡に横たふ天の川

芭蕉が『奥の細道』の旅の途上、越後の出雲崎に泊まつたときに詠んだ句です。その時彼は、海上の孤島である佐渡をおぎ見て、「黄金の島」とも「大罪朝敵の類ひ遠流せらる」地とも、印象を綴っています。彼は絶海の彼方にうかぶ島影に、旅の孤愁をこめたのでした。

しかし、どうやら私たちはずっと、この芭蕉の句に、しばられすぎてきたようにも思われます。実際に佐渡を訪れたことがある人なら、必ずこの島に流れる固有の時、そして様々な「豊かさ」を口にするからです。

佐渡は沖縄本島に次いで日本の島の中では第2の面積をもちます。島は北の金北山（海拔1172メートル）を中心とする「大佐渡」と、南の経塚山（海拔636メートル）を中心とする「小佐渡」からなり、その間に国仲平野が挟まれる、変化に富んだ地勢です。なだらかな山と海の断崖が生むドラマチックな美しさは、全島いたるところに見られます。



1 銘柄「真野鶴」の蔵がある尾畠酒造

2 北雪酒造の仕込風景

3 宿根木 石置き羽葺き屋根 千石船の里

4 タライ舟

5 幽玄薪能

6 鬼太鼓

7 二ツ亀

8 妙宣寺五重塔

治、亀井勝一郎、与謝野晶子、柳田邦男などが、漂泊の思いを書き記しています。それは時として、この地に流された世阿弥や日蓮、順徳院（順徳天皇）への追慕の気持ちも重なりあつていてことでしょう。事前に、そんな史実を知らなくても、海や船は、時空間をワープさせます。さて上陸です。まず港でレンタカーを手配し、佐渡めぐりにとりかかりましょう。

まず頭に入れておきたいのは、佐渡は地域により文化が異なるということです。「国仲の公家文化」「相川の武家文化」「小木の町人文化」と呼ばれます。平野である国仲には、配流された世阿弥に代表される貴族文化が今も多く残ります。佐渡には、全国の能舞台の3分の1が集中していると言われていますが、能以外にも、人形浄瑠璃、佐渡おけさ、鬼太鼓など多様な文化が育っています。また相川は金山が発見されて以来、徳川幕府により金山直轄地（天領）とされました。17世紀初頭は世界最大の産出を誇ったといいます。金鉱もまた佐渡の独自の文化を形成していったのです。一方、小木は廻船により繁栄したエリアです。江戸時代に商業港として整備され、色街も栄えました（本年が開港400年にあたります）。佐渡国小木民俗博物館には、忠実に復元された千石船「白山丸」や、当時の生活民具が3万点も集められています。

今回の旅では、まず南端の伝統的建造物群保存地区に

も指定されている、小木と隣接した港街・宿根木を訪れてみたいと思います。なぜならそこが、古えの「佐渡の面影」を強く残す特別な場所だからです。作家・水上勉も宿根木を「いつも古い思いを誘つてつきない」と書き記しています。「忘れていた何か」を、思い出させてくれる力がここにはあるのでしょうか。船乗りや船大工たちが集落を形成し、千石船をつくりました。この集落は、1ヘクタールの内に110棟もの密集ぶり。板張りの外壁に、船板や船釘を打ったその建築群は必見です。

さて、旅を続けましょう。世界的な太鼓集団・鼓童の本拠地「鼓童村」を訪れるもよし。漂泊は風まかせ。ちょっと脱線して寄り道するのもよし。途中で酒蔵に立ち寄るのも、気ままな大人の楽しみ。明治5年創業の蔵元・北雪酒造は、佐渡の水と米にこだわった日本酒を造り続けてきました。現在は世界中のセレブを魅了するレストランNOBUとコラボレーションするなど、多くの方に愛飲されています。また、エールフランス航空のファーストクラス機内酒にも採用されている日本酒を造るのが、真野にある蔵元・尾畠酒造です。これら地元の名酒を買い込み、さつそく宿に帰って、日が暮れるのも待たず楽しくでも、ばちはあたりますまい。

気候の良いこの時期に、ほろ酔い気分で能舞台が並ぶ真野の町を散策することは、忘れられないほど贅沢な「时空」の旅となるでしょう。